

福島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	倫理学
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科（各専攻共通：一般科目・専門関連科目）		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	技術者倫理、松島隆裕、学術図書出版社；近現代の日本文化、新保哲、北樹出版					
担当教員	笠井 哲					
到達目標						
①講義を通して、「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」の基礎事項について、十分に理解することができる。 ②事例に関するグループディスカッション等の模擬体験学習を通して、専門職業人に必要な倫理的判断力を身につけることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
基礎的能力	倫理学の各種理論と方法について理解し、自分の言葉で説明できる。		倫理学の各種理論と方法について理解している。		倫理学の各種理論と方法について理解していない。	
専門的能力	職業倫理（技術者倫理。ビジネス倫理）の基礎事項について、理解し、自分の言葉で説明できる。		職業倫理（技術者倫理。ビジネス倫理）の基礎事項について、理解している。		職業倫理（技術者倫理。ビジネス倫理）の基礎事項について、理解していない。	
汎用的技能	グループディスカッションを通して、社会人として十分なコミュニケーションスキルを身につけることができる。		グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。		グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができていない。	
態度・志向性	グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として十分な主体性や責任感も身につけることができる。		グループディスカッションを通して、チームワーク力部加えて、社会人として必要な主体性や責任感もを身につけることができる。		グループディスカッションを通して、チームワーク力部加えて、社会人として必要な主体性や責任感もを身につけることができていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	将来、専門職業人として求められる「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」の基礎事項を学ぶ。それとともに、事例に関するグループディスカッション等の模擬体験学習によって、倫理的な判断力を学習する。					
授業の進め方・方法	まず、倫理学の各種理論と方法について、功利主義、義務倫理学、徳倫理学から始め、応用倫理学である生命倫理、環境倫理、職業倫理、技術者倫理、ビジネス倫理について、概要を学習する。 次に、こうした理論を用いて、内部告発、説明責任、トレードオフ、製造物責任法に関する事例について、グループディスカッションを実施する。 グループディスカッションでは、チームワーク力、コミュニケーションスキル、主体性、責任感を磨くとともに、背景（出身学科）の異なる人たちとでも対話ができるようにする。 定期試験（期末のみ）を実施し、グループディスカッションやレポートと総合的に評価し、60点以上を合格とする。 ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。 この科目は学修単位科目のため、授業前に課題プリントを配付し調べさせ、授業後にプリントに授業内容をまとめたものを提出させる。					
注意点	事例に関するグループディスカッションは、いわばロールプレイであるが、実際に自分自身の問題であると考え、積極的に参加すること。 事例は日本だけでなく、海外のものも検討する。その際、英文を読解するので、英和辞典を用意すること。 定期試験の成績を60%、グループディスカッションへの参加状況を20%、自学自習課題の達成状況を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	倫理学の概念と理論		功利主義倫理学・義務倫理学・徳倫理学について理解できる。	
		2週	応用倫理学とは何か		生命倫理と環境倫理の成立と意義について理解できる。	
		3週	職業倫理とは何か（1）		西洋における職業倫理の成立と意義について理解できる。	
		4週	職業倫理とは何か（2）		日本における職業倫理の成立と意義について理解できる。	
		5週	技術者倫理とは何か		技術者倫理成立の背景と意義について理解できる。	
		6週	ビジネス倫理とは何か		ビジネス倫理成立の背景と意義について理解できる。	
		7週	専門職業人の行動規範		倫理綱領ないし倫理規定の成立と意義について理解できる。	
		8週	専門職業人の三つの徳		正直性・真実性・信頼性について理解できる。	
	2ndQ	9週	事例への取り組み方		事例解決に必要な対処法（線引き法等）について理解できる。	
		10週	専門職業人の責任の事例		公衆の安全に対する技術者の責任について理解できる。	
		11週	内部告発に関する事例		組織における技術者の判断と行動について理解できる。	
		12週	説明責任に関する事例		技術者の公衆への説明責任と信頼関係について理解できる。	
		13週	安全性とコストの事例		コストと安全とのトレードオフについて理解できる。	
		14週	製造物責任法の事例		技術者の安全への法的・倫理的責任について理解できる。	

		15週	まとめ	1 4 週までを踏まえ、技術者の次世代への責任を説明できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	4	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	4	
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	4	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	4	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	4	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	4	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	4	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	4	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	4	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	4	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	4	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	4	
				全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	4	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	4	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	4	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	4	
				分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能
他者の意見を聞き合意形成することができる。	4					
合意形成のために会話を成立させることができる。	4					
グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4					
グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4					
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。		4	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。		4	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。		4	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。		4	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。		4	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。		4	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。		4	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。		4	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。		4	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。		4	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。		4	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。		4	
			企業には社会的責任があることを認識している。		4	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。		4	

				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	
評価割合						
		試験	課題レポート	グループディスカッション	合計	
総合評価割合		60	20	20	100	
基礎的能力		30	10	0	40	
専門的能力		30	10	0	40	
汎用的技能		0	0	10	10	
態度・志向性		0	0	10	10	